

研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 秋山博子

令和4年10月10日～令和4年10月29日 下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	第41回全国クレサラ・生活再建問題被害者交流集会 in 滋賀「日本の社会保障はどこに向かうべきか？～コロナ対応から普遍的な生活支援へ」(オンライン受講)
研修の目的	コロナパンデミックで浮き彫りになった社会保障の課題と展望について全国の現場で活動する方々から学ぶ。●主催/第41回全国クレサラ・生活再建問題被害者交流集会実行委員会
所感	<p>10/10～10/29まで、9つの分科会と1つの全体会のプログラム。滋賀県は日本の障害児教育発祥の地とも聞いたことがあり、私はオンライン参加であるが、その地で社会保障の未来を探ろうという集会に期待がふくらんだ。</p> <p>分科会は①「地域から生活保護をあたりまえの権利に！」②「女性の多重債務問題」③「同一価値労働同一賃金」④「学費奨学金制度改革の現状と保証人訴訟判決を考える」⑤「住まいの権利はどこまで実現されたか～改正住宅セーフティネット法施行5年を迎え、現状と課題を考える」⑥「格差と闘う！税制と社会保障」⑦「被害者と専門職の協働～その源流を探る」⑧「滞納処分問題の実情と解決」⑨「特定商取引法の抜本的改正に向けて」、全体会は「基調講演/日本の社会保障の向かうべきところ～活動から見えてくる理念」「パネルディスカッション/日本の社会保障はどこに向かうべきか？コロナ対応から普遍的な生活支援へ」。全国の現場で支援に奔走している講師たちがこれだけ揃っての集会は壮観で、またそれだけ、社会保障の課題は多岐にわたっており重層的であることを思い知らされる。</p> <p>分科会のテーマどれか一つとっても、議員の取り組むべきテーマとして十分に重く、意味があると感じた。例えば②「女性の多重債務問題」では、経済的な暴力を特定の配偶者間の問題として捉えるのではなく、女性の貧困を生む社会構造に根ざした問題として考える必要があるのではないか、と指摘している。このフレームの変換作業は、DVの個別対応はもちろん充実させるべきではあるが、根本の解決に少しでも貢献するために、社会を変えていくために、大変重要なことであり、他の問題に向き合う時にも、必要なことである。社会はその視点を欠いたまま、どれだけ多くの困難を生んできたか、そして置き去りにしてきたかと胸が痛くなった。</p>
今後の参考となる事項	<p>(1) 社会保障の理念について考察したい(議員にとって最も重要だと思うので)。</p> <p>(2) 女性と生活困窮の調査を進める。</p> <p>(3) アウトリーチの手法を研究する。</p>

* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

* 参考資料等がある場合は、添付してください。